

西日本インカレ（合同研究会）2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ） オオサカケイザイダイガク	フリガナ） ケイザイガクブ	フリガナ） ハットリ ケイスケ ゼミナール
大阪経済大学	経済学部	服部 圭介 ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ） チームハットリくん	フリガナ） ホリグチ ユウタ	8 人	無
チームハットリ君	堀口 雄大		

研究テーマ（発表タイトル）
Motivation ～ 日米の学生を対象とした RCT 実験より ～

※必ず＜企画シート作成上の注意＞を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

本研究では、日米の学生を対象に、2種類のテスト（計算問題・間違い探し問題）をランダム化比較試験（Randomized Controlled Trial: RCT）で行い、テスト前の「自己効力感」の向上経験の有無が、その後のテストスコアに及ぼす影響を考察する。具体的には、両グループともに内容が同一であるテストを受ける前に、「簡単な例題を解かせるグループ」と「難しい例題を解かせるグループ」に分け、その後のテストの正答率やテストに対する印象などの差を比較する。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

カナダの心理学者 Albert Bandura（1977）は、人が何らかの課題に直面した際、自分なら「きっとできる」と思い、行動を起こそうとする「自信」のことを「自己効力感（Self-efficacy）」と提唱した。そして、この「自己効力感」が強いほど、実際に行動を遂行できる傾向にあると述べている。さらに、Cervone & Peake（1986）によると、高い「自己効力感」は、目標達成のための粘り強さにつながることで、また、松沼 光泰（2004）によると、「自己効力感」が高いと小学生の算数のテストの成績が高いことが明らかとなっている。しかし、実際には、作業前の「自己効力感」を向上させる経験の有無が、その後の作業に対する「モチベーション」にどのような影響を与えるのかを検証するような研究は、私たちの知る限り、行われていないことが現状である。

3. 研究テーマの課題

私たちが作業に対する「モチベーション」を向上させるには、最初に「簡単な作業」を経験し、その後作業に臨む方が良いのか、それとも、最初に「難しい作業」を経験し、その後作業に臨む方が良いのか、どちらの経験が、私たちの作業に対する「モチベーション」を向上させるのかを検証する。また、今回は、大阪経済大学の学生のみならず、米国のメンフィス大学の学生も対象に、実験を実施し、日米比較を行う。

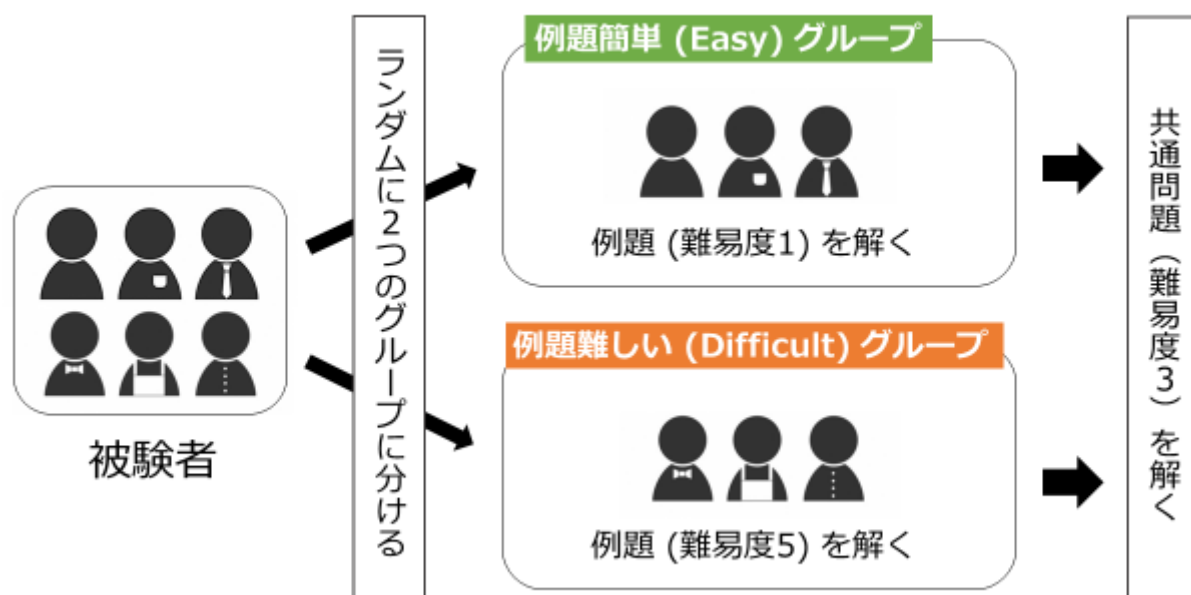
4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

私たちは、ランダム化比較試験（RCT）と呼ばれる、医学の世界では標準的となっている信頼のおける実験手法を用いて、2種類のテスト（計算問題・間違い探し問題）を大阪経済大学の学生と米国のメンフィス大学の学生を被験者として行う。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

1つ目の実験は『計算問題実験』と名付けた実験である。まず、被験者をランダムに2つのグループに分け、片方のグループには、難易度1（極端に簡単である）の例題、もう片方のグループには、難易度5（極端に難しい）の例題を解いてもらい、例題終了後、すぐに共通問題（難易度3）に移り、解答してもらう。そして、両グループ間の被験者の全共通問題の平均点や、設問ごとの平均点、およびその推移の差を比較する。グループのランダム化に際しては、二重盲検法を用いる。具体的には、被験者に例題だけが異なる2種類のテスト用紙をあらかじめ無作為に混ぜておき、それを配布する。このような作業により、被験者は「他の被験者が違った例題を解いているかもしれない」という期待を抱かせず、かつ、実験運営者である私たちも「どの学生がどちらのグループに属するか」を実験時にはわからない状態にすることにより、より客観的な実験データを得ることができる。両グループの被験者ともに、共通問題を解答後、被験者の属性や好みを調査するための簡単なアンケートに答えてもらい、実験は終了である。2つ目の実験は『間違い探し問題実験』と名付けた実験である。こちらも『計算問題実験』と同様の方法で実施し、両グループ間の被験者の全共通問題の平均点や、設問ごとの平均点、およびその推移の差を比較する。

ランダム化比較試験（RCT）



6. 結果や今後の取り組み

日米の学生を対象とした2種類の実験は、すでに完了しており、現在（11月6日時点）はデータの整理・解析を進めている。私たちが作業に対する「モチベーション」を向上させるには、最初に「簡単な作業」を経験し、その後作業に臨む方が良いのか、それとも、最初に「難しい作業」を経験し、その後作業に臨む方が良いのか、どちらの経験が私たちの作業に対する「モチベーション」を向上させるのかを本研究結果から明らかにする。私たちが何か作業をする際に、最初にどのような経験をすることで、その後の作業に対する「モチベーション」を向上させることができるのか、という問題を考える上で、本研究結果は、重要な社会的意義を持っていると考える。

7. 参考文献

- Bandura, A. (1977) Self-efficacy: Toward a Unifying Theory of Behavioral Change, *Psychological Review* 84, 191-215.
- Cervone, D. and Peake, K. (1986) Anchoring, efficacy and action: The influence of judgmental heuristics on self-efficacy judgments and behavior, *Journal of Personality and Social Psychology* 50, 492-501.
- 松沼 光泰 (2004) テスト不安, 自己効力感, 自己調整学習及びテストパフォーマンスの関連性 – 小学校 4 年生と算数のテストを対象として –, *教育心理学研究* 52, 426-436.
- 中室 牧子 (2015) 「学力」の経済学, ディスカヴァー・トゥエンティワン

西日本インカレ事務局への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、西日本インカレ事務局への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までを渡します。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※その他、注意点については「企画シート・パワーポイントの作成および提出について」をご参照ください。